科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：コミュニケーションを考える ILAS Seminar :Introduction to communication			担当者所属 職名・氏名	学生総合支援機構 准教授　古川　裕之		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	共北11			使用言語	日本語
キーワード	臨床心理学関連 / コミュニケーション / グループワーク / 自己理解						

[授業の概要・目的]

大学生活や就職活動、さらにその先の社会人として生きていく中で、現代ではやたらと「コミュニケーションスキル」が求められます。「コミュ障」という言葉も広く知られるようになった現代は、コミュニケーション偏重時代と言えるかもしれません。では、「コミュニケーション」とは一体どのようなものなのでしょうか。「コミュニケーションスキル」と言った時には、上手に話せることや、相手と協調できることなどが重視されているように思われるかもしれません。しかし、話すのが苦手だったり、人と一緒に何かをするのが不得意な人もいるでしょう。その人たちは「コミュニケーションスキル」が「劣っている」とか「ない」と言ってしまって良いのでしょうか？「話すのが苦手」な人でも、相手や状況によってはうまく話せる時もあります。そのため、コミュニケーションについて考える際には、どういう時には話しやすいのか、というような自分自身への理解がまずは重要となります。

この授業では「上手に話せるようになる」ことを目指すのではなく、コミュニケーションの基盤となる、自分自身についての理解を深めることを第一の目的とします。そして、コミュニケーションの個別性を理解し、よりよいコミュニケーションとはどのようなものかを考えることを第二の目的とします。

[到達目標]

コミュニケーションは1人だけで行えるものではありません。何かと・誰かとともに行う相互的なものです。そのため、単純に「良い―悪い」「上手―下手」といった次元で理解することはできません。まずは、人と接する時の自分の感情・感覚などに気づくことが目標となります。その上で、自身の気持ちを伝えること、相手が何を伝えようとしているのかを想像すること・耳を傾けることといった相互的なやりとりができるようになることも目標となります。

授業では、これらの2つの目標を達成できるように、個人・グループでの様々なワークを行います。それらのワークを通じて、自身についての理解を深め、さらに自他のコミュニケーションのあり方について理解を深めることを目標とします。

[授業計画と内容]

個人・グループでのワークを中心に行います。また、言葉による伝達だけではなく、身体に直接働きかける素材なども用いながら、自身の感覚を確かめて言葉にすることも行います。様々なワークを通して、コミュニケーションの様々な側面・多層性に気づく機会にできればと思います。

授業予定は以下の通りです（ただし、受講者の様子を見ながら、適宜順番を入れ替えたり、内容を変更する場合があります）。

第1回：オリエンテーション
第2回：自己紹介
第3回：アイスブレイク……人との関わりを始める

ILASセミナー ：コミュニケーションを考える(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：コミュニケーションを考える(2)

第4回：「きく」①
第5回：「きく」②
第6回：「伝える」①
第7回：「伝える」②
第8回：自分の感覚を表現する
第9回：他者の表現に関わる
第10回：「話し合う」①
第11回：「話し合う」②
第12回：「主張する」
第13回：「かけひきする」
第14回：授業のまとめと振り返り
最終回：フィードバック

[履修要件]

本授業を履修するにあたり、事前に履修が望まれる科目はありません。ただし、本授業は実習形式で行う授業で、連続した内容を扱うことがあります。そのため、欠席すると、その後の参加に支障が出ることがあります。やむをえない場合を除き、毎回の出席および、授業への主体的な参加が必要となります。

[成績評価の方法・観点]

平常点（80点）と期末レポート（20点）で評価します。

【平常点（80点）】毎回の授業に参加し、グループワーク等における活動や話し合いなどにどの程度積極的に関与していたかについて評価を行います。また、授業の中で感じたこと、考えたこと、気付いたことなどを、毎回の授業後に小レポートとしてまとめ、次回授業時に提出してもらいます。レポートで書かれた内容が実習内容に沿っているか、また自身の感じたことなどに基づいて考察されているか、等の観点から評価を行います。

【期末レポート（20点）】授業全体を通して学んだことについて、総合的なレポートを作成してもらい、コミュニケーションや自分自身についての理解の深まり等の観点から評価を行います。

なお、「履修要件」にもある通り、授業を欠席すると、その後の授業参加に支障が出ることがあります。そのため、特別な事情を除いて3回以上授業を欠席した場合には、不合格とします。また、毎回の授業後の小レポートでの振り返りも重要なものと考えますので、小レポートを3回以上提出しなかった場合も不合格とします。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
参考書・文献については必要な際に授業内で適宜紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

特別に予習が必要なものはありませんが、授業内容を通して興味を持った内容について自主的に本を読むなど行ってもかまいません。毎回の授業の中で自分が感じたことを丁寧に振り返り、レポート作成に活かすことを心がけてください。

ILASセミナー ：コミュニケーションを考える(3)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：コミュニケーションを考える(3)

[その他（オフィスアワー等）]

授業は基本的に教室で行いますが、実習内容によっては教室外で行うこともあります（学外に出ることはありません）。
身体を使ったワークを行うこともありますので、各自で学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加入しておいてください。

オフィスアワーは、特に日時の指定はありません。随時受け付けます。

[主要授業科目（学部・学科名）]